

事務事業チェックシート

事務事業No 551 事業名 救急対策及び救急活動に関する事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	5	消防力の充実
施策	3	救急・救助体制の充実
取組方針	4	救急・救助活動能力の充実

事業種別	継続
事業期間	～
事業実施の根拠法令	
関連個別計画	
担当課・担当課長 (Tel)	警防課 和佐 茂雄 (428-0119)
関連課	

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		消防費	
	項		消防費	
	目		消防費	
	大事業		消防事業	
事項		救急高度化等推進整備事業		

1 事業概要及び実施内容

事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容					
救急活動に必要な資器材の購入・整備を行い、市民の救命率・社会復帰率を向上させる事業。 また、増え続ける救急需要に対して、救急車適正利用に関する啓発活動を展開し、不要の救急要請を抑制する事業	救急活動に必要な物品の購入 救急機械器具の修繕 救急車適正利用の啓蒙 民間患者搬送業者による搬送を促進し、救急需要を抑制する。					
事業概要	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	救急隊員用タブレットの導入 PA連携出動の強化 ドクターカー本格運用 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催	PA連携出動の強化 ドクターカー本格運用 救急ワークステーション (ドクターカー運用含む。) 常時開設に向けた検討開始 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催	PA連携出動の強化 ドクターカー本格運用 救急ワークステーション (ドクターカー運用含む。) の試行開設及び常時開設に向けた検討の継続 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催	PA連携出動の強化 常設型和歌山市救急ワークステーションの充実・強化 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催	PA連携出動の強化 常設型和歌山市救急ワークステーションの充実・強化 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催	PA連携出動の強化 常設型和歌山市救急ワークステーションの充実・強化 救急車適正利用の促進 民間患者搬送事業乗務員の講習会開催
	実施内容					

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	4,603	5,704	6,353	5,977	5,139	5,622	4,933		4,933	
伸び率 (%)	-	-	38.0%	4.8%	▲19.1%	▲5.9%	▲4.0%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	8,005	7,668	7,668	8,268	8,268	8,289	8,658		8,658	
正規職員	8,005	7,668	7,668	8,268	8,268	8,289	8,658		8,658	
正規職員以外	560	563	563							
小計	8,565	8,231	8,231	8,268	8,268	8,289	8,658		8,658	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	453	453	248	248	2,556	3,154	2,553		2,553	
一般財源 (税等)	4,150	5,251	6,105	5,729	2,583	2,468	2,380		2,380	
所要人数 (人)	1.05	1.03	1.03	1.09	1.09	1.09	1.09		1.09	
正規職員	1.05	1.03	1.03	1.09	1.09	1.09	1.09		1.09	
正規職員以外	0.38	0.38	0.38							
主な予算内訳	・医療材料費2,538千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 救急車適正利用広報 (街頭・救急講習会)	回	目標値	300	300	300	300	300
		実績値	310	299	255		
		達成度 (%)	103.3%	99.7%	85.0%		
活動指標 病院交渉拒否率	件	目標値	23.6	22.6	21.6	20.6	30.6
		実績値	23.9	26.8	28		
		達成度 (%)	98.7%	84.3%	77.1%		
成果指標 救急搬送者軽症者率	%	目標値	64	61	58	55	55
		実績値	67.4	66.3	64.8		
		達成度 (%)	95.0%	92.0%	89.5%		
成果指標		目標値					
		実績値					
		達成度 (%)					

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>昨年、救急出動件数が7年ぶりに減少はしたが平成28年度は増加に転じた。高齢者の救急需要は増加しており、今後も救急車適正利用に関する啓発活動を実施し、緊急性がない救急搬送を抑制しなければ、救急車の現場到着時間の遅延が懸念されます。</p> <p>また、救急救命士の処置範囲拡大もあり、活動に必要な物品が増大しています。</p>
見直し・改善内容	<p>平成28年度に常設型救急ワークステーションが設置され、救急隊員の教育ドクターカー運用の拠点が整った。今後、運用について内容を精査し、必要に応じ修正を行いながら、更なる市民の救命率の向上、後遺症の低減に努めたい。</p>